

衣生活・住生活における基礎基本と技術の定着を図る学習指導の工夫

1. 設定理由

今年度中学校では、新指導要領の完全実施となり、家庭分野4項目が小中統一されたものとなった。また、これまで選択して履修されていた内容が必修となり、衣生活・住生活では「布を用いた物の製作」が必修内容となるなど、授業時数は変わらない中、指導内容は増加したこととなる。限られた時数の中で、子どもたちがよりよい生活を送るために必要な知識や技能を身につけ、生活に生かす力を育てていかななくてはならない。そこで、小中における指導内容の精選と効果的な指導計画の工夫を考え、実践的な活動を取り入れながら、子どもたちが意欲的に学習にとりくむ題材を検討していきたい。

「衣生活・住生活と自立」では、人間を取り巻く環境として衣服と住まいを取り上げ、快適で豊かな生活を営むための基礎的・基本的な内容を指導する。衣服の手入れや住まいの掃除など、日頃各家庭で行われている行為であるが、環境や資源を考慮して生活をしていくことが大切である。学習指導の中で、実験や体験の場を設定し、知識だけでなく生活に生かせる技能も身につけさせていきたい。各学年における基礎基本をどのようにおさえて指導にあたるか明確にし、実生活に生かす力を育てる学習指導の実践にとりくんでいきたいと考え本題材を設定した。

2. 仮説

衣生活・住生活の学習において、体験的学習や問題解決学習の場を授業の中で設定すれば、子どもたちの興味関心が高まり、基礎基本の定着と共に生活の中で実践しようとする意欲を育てることができるであろう。

3. 研究内容

小中学校における、各学年ごとの衣生活・住生活領域における授業実践

4. 結論

- 衣生活の学習において、実験実習や体験学習を通して洗剤のはたらきや洗濯の方法を学ぶことで、手入れの必要性を知り、基礎的な知識を身につけることができた。
- 自分で生活に生かせるバッグを考えたり、掃除の道具を工夫することで、興味関心を持って学習に取り組み、実生活に生そうとする意欲が見られた。